

## プラナカンは何？

プラナカン(Peranakan)とは、マレー語で「ここで生まれた」を意味し、英語では“Born here”と訳されます。マレーシアに移住してきた世界各地の男性が、現地に住んでいたマレー人女性と結婚し、生まれてきた混血の子孫がプラナカンと呼ばれています。

したがって、プラナカン＝中国系とマレー系の混血を定義するのは、間違った風潮と言えるでしょう。中華系移民男性とマレー系現地女性の混血による子孫はババニョニャ、もしくは中華系プラナカンと総称するのが正しいと断言します。

男子を「ババ」、  
女子を「ニョニャ」

父系祖の宗教や伝統を継承し、母系祖の言語、食習慣や生活様式を取り入れ独自の文化で生活を営む民族がプラナカンの定義とされます。したがって、20世紀前半以降に中華系男性とマレー系女性が婚姻する以前にイスラム教に改宗せざるを得ない現在では、混血の子孫が生まれてもババニョニャとは呼ばなくなっています。

ニョニャ料理のルーツを築いたのは、プラナカンの中でも“Straits Chinese”(海峡で生まれた華人)とも呼ばれる中華系プラナカン「ババ・ニョニャ」。父系の中華料理の食材を母系のマレー人女性が香辛料を調理のスパイスに取り入れた、見た目が中華で味がマレー的な料理がニョニャ料理と呼ばれています。

